



GTM 挨拶

2630 地区ガバナー 劔田 廣喜

今年は日本にロータリーが誕生して100周年の記念すべき年であります。日本のロータリー100周年実行委員会がクラブ運営の課題について、アンケート調査をいたしました。その結果、クラブ運営の課題は①例会、委員会活動のマナー化②ネット対応の不十分③ロータリーの研修不足とクラブ内でのロータリーの研修不足、が課題の3番目に来ています。また、国際ロータリーはロータリアンの退会が顕著になってきたという事で、その原因を分析して行くと、折角入会して貰ったのに、ロータリーの良さを良く分かって貰えず、短期間で退会していかれている方が多いという事実が出てきました。

そこで、退会防止のためには、ロータリーの良さをキチンと伝えていくことが重要であるということになり、各クラブに研修リーダーを定め、研修リーダーが中心になり、会員に研修を実施して行こうと言う事になったわけです。当地区においても前年度よりクラブ研修リーダーの設置をお願いしております。

近年、新会員も古くからの会員も含め、ロータリーの知識が欠如しているロータリアンが多く見られます。これは、クラブが徹底した定期研修を継続的に提供していないことに起因していると思われます。

ロータリーについての知識を持った良い指導者のいるクラブでは価値あるプロジェクトに多くの会員が関わり、ロータリアンとしての充実感を体験して、質の高い例会を実践しているのです。結果として 会員を育て、会員基盤を維持し、退会防止に繋がっています。

クラブ運営はロータリーの根幹です。例会はロータリーの魅力、ロータリアンの成長の場をもたらすところでもあります。その為にはクラブの親睦と学び研修が大きな要素となります。そこで、今年度、研修リーダーを中心にグループ研修して行こうというのが、GTM（グループ・トレーニング・ミーティング）の趣旨であります。

ただ、今年はコロナ禍により例会が数カ月休会を余儀なくされ、いまだに、フェース TO フェースの例会が開催できない現状であります。クラブ研修リーダーの皆様も活動できない状態だと思います。当初の趣旨のようにできないと思いますが、理念、目的を共にする仲間が集まって学ぶ事は大変意義ある事と考えます。

最近ではロータリー活動が多面的になり、新しい会員には、ロータリーとは何であるか余程よく説明しないと、ロータリーが何であるかわからないまま、或いは終わってしまうことにもなりかねないと危惧しています。単に定款・細則やロータリー用語の開設に終始することなく、会員自身がロータリーに興味をもち、自らがもっとロータリーを知ろうとする、そして一人でも多くの会員にロータリーが好きになるきっかけを与えることが大切ではないでしょうか。こうしてロータリーを知ることにより、ロータリーに情熱を燃やすようになり、意欲的なロータリアンになるものと思われま

本日がその機会の扉を開くことを祈念しご挨拶とさせていただきます。